

Connexions 年鑑のご紹介

旧ソビエト連邦を震撼させたストライキの波に参加したある炭鉱労働者は、地元ストライキ委員会が直面する問題についてこう語った。“我々は二つの簡単な質問に答えなければならない。‘どのように生きていけばよいのか?’そして‘今何をすべきなのか?’”

これは誰もが直面する質問である。我々の世界は危機にある。政府、法人組織、公私機関は秩序が保たれていると、そしてすべてが時期良くなるであろうと公言する。しかし我々を取り巻く環境は貧困、暴力、不正、環境問題、**戦争**である。

10年以上もの間、上記の機関は社会に**新権力**という課題をつきつけ、我々には自由市場と民営化をペースとした新世界秩序に適応するしか選択の余地はないと語りつづけてきた。だが、約束された利益を得どころか我々の大半は生活が**経済的かつ社会的にも**、そして精神面でも以前よりも苦しくなっていると感じている。

我々の大半は好んで選択した人生を送っているわけではない。これまでの前例が指し示すように他に選択の手段がないと自身も強く思い込み、気を揉んだり、社会が崩壊するようなことはすべきではないと諦めてしまうのである。本当に多くの人々が**選択肢があればと、またあるべきだ**と考えているのであるが、結局のところ、本当の変化が訪れるという希望を抱くこと自体、理想主義でしかないと断念してしまうのである。‘組織’はあまりにも大きく強大で、我々は非力なうえ、数においてもかなわないのである。

‘今何をすればよいのか?’ ‘どう生きていけばよいのか?’ 多くの場合、我々は自分のことで精一杯で他人のことを考える余裕がないのである。

‘何もできない’という無力感が広まる中、それでも人々は生活が脅かされたり、不当に扱われたり、あるいは手に入れたいと思うゴールが目前に迫った時、共通の目標にむかって団結するのである。時には目立たないようにゆっくりと、またある時は、危険や非常に不利な立場にもかかわらず、表面的には何もないところから火がつき大きなムーブメントへと発展するのである。

変化は不可欠であり、かつ起こりうるという理念を Connexions 年鑑は支持しております。私どもの主旨は**実践的**であること。社会の草の根レベルで活動され、社会、**経済** 環境、国際問題の解決策に取り組んでおられる方々の情報を提供しております。

情報提供をすることにより、すでに活動中の皆様が容易にお互いのことを知ることができ、連絡を取りあい、より効率的かつ協力的に仕事ができるようになればよいと思っております。これから活動を開始しようと思っている方、また活動方法を探している方がご自身と同じ志を持った方を見つけられるよう、情報を利用して頂きたいと思っております。

また本年鑑は有害かつ搾取的な機関や組織に代わりえるものが存在する、またそのような代替機関を創設しようという人々が存在するのだというメッセージを伝えられれば良いと思っております。

相互の目標に向かって、どうすれば物事を効率良く進めることができるのか、またどうすればこの活動を世間一般に広めていくことができるかという意見を奨励することが私どもの目的であります。これをうまく達成できれば、アメリカ国内にとどまらず国際レベルで、またひとつの問題だけでなく、公平かつ皆がお互いに思いやりを持った世界を目標に掲げた大きな視野で、より影響力のある社会活動を生み出す可能性があります。

だからといって個人単位のグループが巨大な組織活動に吸収されなければならないというわけではありません。大切なことは他人へ手を差し伸べること、これが自分自身をも助けることにつながるのです。お互いの連帯感を高めることで、人と人との結びつきを強固なものにするのです。人と同じように感じ、行動することで得られる連帯感が理解、信頼、影響力の重要な源となるのです。そして影響力というものは我々自身も内に秘めていて引き出すことができるのです。

変化の過程では支援活動は必要不可欠な要素であります。私どもは先にあげた搾取機関に取って代わる組織を創設するための影響力を探し求めております。同時に我々の行動の妨げとなるような権力構造を打ち破る方法をも模索しております。本書は代替機関を創設しようとする方々のおられる方々のご支援ができるよう心より願っております。